

# 教育委員会だより

令和8年3月26日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像>  
お互いを尊重し、  
主体的に学び、  
挑戦する多治見の子

## “挑戦”と“アップデート”の1年

間もなく本年度末を迎えます。この1年を振り返ってみると、教育委員会・学校にとって大きな変化の年であったと感じています。そのすべてに触れることはできませんが、主なものを振り返ってみたいと思います。

### <第3次多治見市教育基本計画の推進>

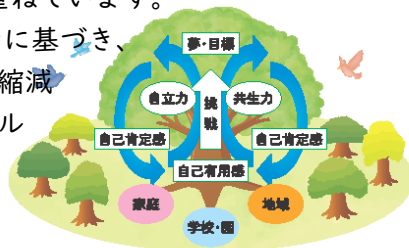
今年度は、『挑戦』に加えて『アップデート』をキーワードにスタートした第3次多治見市教育基本計画の3年次でした。教育委員会会議や学校訪問時の学校説明にもこのキーワードが定着し、本市でめざす方向がしっかり共有されていると感じます。また、各学校においては、学校経営構想に学校課題解決のための取組や特色ある教育活動が具体的に位置付き、中学校区ごとの幼保小中連携も深まり、『多治見市型一貫教育』として着実な歩みを重ねています。

『教職員の働き方改革』は、本市2025プランに基づき、着実に成果を上げています。特に、時間外勤務の縮減（＝業務のスリム化・効率化）や教職員のメンタルヘルス（＝仕事は大変だが、上司からのアドバイスと同僚性の高い職員集団の中で頑張っている）においてこれまでの取組の成果が表れています。

今後は、教職員一人ひとりの“よりよい働き方”と“働きがい”の両立に向けた取組の充実をすすめてまいります。

### <笠原小中学校の開校に向けた取組>

ハード面では、建設工事が順調に進み、無事期日通りに新校舎が完成しました。ゆとりのある広々とした廊下や教室、木のぬくもりが感じられ、地元のタイルをふんだんに使った素晴らしい校舎となりました。ソフト面では、すでに笠原中学校敷地内で小学生と中学生が“共同生活”を経験し、合同カリキュラム、合同行事、教科担任制、異学年交流など、4月の開校に向けた足がかりが整いました。スタート前は様々な不安もありましたが、両校の先生方のご努力と工夫で、小・中学校の教員の乗り入れによる週時程等の試行に積極的に取り組んでいただきました。また、笠原幼保小中一貫教育研究会による協議も重ね、保護者や地元の



方々と共通理解を図りながら“笠原地域が支える笠原の学校”の開校準備を進めてきました。万全の体制で令和8年度4月の開校を迎えることができそうです。

### <中学校給食費の無償化・小学校給食費負担軽減事業への準備>

学校給食費については、特に大きな動きがあった1年でした。市長の公約である、『中学生の学校給食費無償化』について、幅広く意見聴取を重ね、予算審議や法整備を行い、令和8年度4月からの完全無償化開始の運びとなりました。続いて、国の方針に基づく『小学校の学校給食費負担軽減事業』の実施に向けた準備を早急に行い、小学校の給食についても令和8年度については『実質無償化』を実施する方針を決定しました。今後は物価高騰の動向を注視しながら、児童生徒に安全かつ質の高い学校給食が継続的に提供できるよう対策を進めます。

### <不登校・不適應への対策>

各学校に設置した校内教育支援センターの充実を図り、児童生徒が安心して生活できる『居場所』づくりを重視して一人一人の学びの場の確保に取り組んできました。トライ・サポーター配置校（6校）での成果をふまえ、来年度さらに2名増員して“将来の自立に向けた支援”の充実を図っていきます。また、昨年度リニューアルした『教育支援センターさわらび』の機能を拡大し、各地域の公民館等をお借りして児童生徒や保護者と交流する「移動さわらび」を実施しました。

### <スクール・ロイヤーの運用>

学校で起こる対応が難しい事案（法的な知見を必要とする）に対し、昨年度よりスクール・ロイヤーの運用を開始しました。これまでの相談実績は24件（昨年後期6件）。学校の対応について法の専門家である弁護士からの助言を受けることで、法的根拠を背景とした丁寧な対応が進んできました。

## 終わりに ～すべては子どもたちのために～

社会のめまぐるしい変化とともに、教育の現場は常に新たな課題に直面し、これまで以上に難しい対応を迫られています。教育現場に携わる者にとって、目の前の課題一つ一つを丁寧に解決していく姿勢に変わりはありませんが、日々の対応に終始して、「教育活動の根底」にあるものを見失わないようにしたいと感じます。それが「すべては子どもたちのために」です。保護者と教職員、地域の方との間で考えがすれ違うことがあります。しかし、指導観や価値観はそれぞれちがっていても、最終的に目指しているのは「子どものため」であると思います。それぞれの立場で子どものために思い行動したことは、子どもに必ず伝わるはずで、子どもの未来に軸足を置き、深い愛情を惜しみなく注ぐことのできる「大人の使命」を大切に、教育活動に誇りをもって進めていきたいですね。